

所報

INSTITUTE OF BUSINESS RESEARCH
COLLEGE OF ECONOMICS
NIHON UNIVERSITY

No. 75

展 望

日本大学経済学部産業経営研究所では、2014年度の全体テーマに、「ビッグデータ時代における産業・企業の課題」をかけた、このテーマに基づいて様々な活動を行ってきた。今回の所報においても二つの成果が示されている。

一つ目は、第279回当研究所月例講演会（2014/6/5）にてご講演いただいた、利光哲哉氏（富士通株式会社総合商品戦略本部・シニアエキスパート^(注)）の、「カッコいいビッグデータからベタな身近なビッグデータ、利益貢献を目指して！！」である。このご講演では、企業における身近なビッグデータとは何か、という内容から、利益に結びつくビッグデータの利活用方法、さらには、従来のデータウェアハウスを中心とした情報分析との違いなどについて、企業の現場で実際にビッグデータを利活用されている方の目線でご紹介いただいた。

二つ目は、第281回同月例講演会（2014/9/17）にてご講演いただいた、寺田雅之氏（株式会社NTTドコモ先進技術研究所・主任研究員^(注)）の「モバイル空間統計：携帯電話ネットワークを活用した人口推計の試み」である。このご講演では、人々の移動履歴等のビッグデータをモバイルから時系列に取得し、これらのデータを空間的に統計処理して、その結果得られる事実や証拠に基づいて政策判断や経営判断を行う、といった研究事例等についてご紹介いただいた。さらに、モバイルデータのようなプライバシー性の高いビッグデータの活用の在り方についても重要なご示唆を賜った。

他方、本所報には当研究所における2014年度の研究成果も二つ示されている。一つ目は、本学の小林信治教授を中心としたグループ研究で、テーマは「企業のロビー活動と最適な産業政策の形成～交渉ゲームによるアプローチ～」であり、二つ目は、本学の加藤一誠教授を中心としたグループ研究で、「日本における空港経営のあり方」である。共に、産業や企業の課題に関する興味深い論考が示されている。

最後に、ビッグデータの今後の展望について、特にLOD（Linked Open Data）について触れたい。LODは、WWWの生みの親であるティム・バーナーズ＝リーが2006年に提唱した、公共機関等が持つ様々なデータを、CC（クリエイティブコモンズ）ライセンス等により著作権を保護する形で公開（Open）し、それらのデータが様々なシーンで繋がって（Link）いくことにより、有意な価値や知見などが生み出されていく、という概念である。LODの世界はまさしくビッグデータの世界であり、今後の可能性を注視していきたい。

^(注) 所属及び役職は、ご講演当時のものです。

（産業経営研究所 大槻 明）